

令和5（2023）年度

川崎市立小学校教育研究会養護研究会 研究報告

研究主題

自分を大切にできる子の育成

～「パワーアップシート」を活用した保健室経営～



- ・日時：令和6(2024)年1月17日(水)14:00～
- ・会場：高津市民館 大ホール
- ・発表地区：多摩区養護研究会

式次第

1. 開会の言葉
2. 研究会長あいさつ
3. 来賓あいさつ
4. 来賓および指導者助言者紹介
5. 研究報告・研究協議
6. 指導講評
7. 次年度報告地区(麻生区)中間報告
8. 閉会の言葉

Ⅰ. 研究の概要

1. 主題設定の理由とねらい

多摩地区研究主題

自分を大切にできる子の育成～「パワーアップシート」を活用した保健室経営～

(1) 子どもの実態とめざす子ども像

多摩区の子どもたちの実態を探る中で、各校から生活習慣・心・けが等、様々な健康課題が挙がった。どの健康課題に対しても共通していたのが「自分の体に興味・関心がない」「自分の体について知らない」「自分の状態を説明できない」「自分で意思決定ができない」「知識・経験を他の人に伝えられない」という課題である。

平成 29 年に改訂された学習指導要領において、これからの社会がどんなに変化して予測困難な時代になっても、子どもたちが自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現していくために必要な力が三つの柱として整理された。また、文部科学省の『心身の健康の保持増進に関する指導の資質・能力の育成』の中で、初等教育段階における三つの柱については、発達段階に応じて次のように明記されている。

【知識及び技能】 健康な生活を送るための基礎となる各教科等の知識・技能

【思考力、判断力、表現力等】 自らの健康を適切に管理し、改善していく力
健康に係る情報を収集し、意思決定・行動選択していく力

【学びに向かう力、人間性等】 健康の大切さ、健康の保持増進に向かう情意や態度等

多摩区養護研究会では、子どもたちが3つの力をバランスよく身に付けることで、どのような健康課題に直面しても、自ら必要な情報を収集し、選定、活用することで解決していけるのではないかと考えた。そこで、生涯を通して健康な生活を送るために自己肯定感やヘルスリテラシーが高い「自分を大切にできる子」をめざす子ども像として研究を推進していくこととした。

(2) 保健室経営の実態とパワーアップシートの活用

私たち養護教諭は日々の保健室経営において、様々な場面で子どもたちの保健教育に携わっている。保健室来室者数や健康診断結果、日常の子どもたちの様子等、種々の場面において子どもたちの健康課題を把握することで、適宜、保健教育を行っている。例えば、自校の子どもたちの健康課題解決のために、例年行っている保健の指導・体育科（保健領域）、子どもたちの実態や担任からの依頼で迅速に行う保健の指導、保健室来室時に行う個別の保健指導等、その場面は多岐におよんでいる。

どの場面においても、子どもの実態を把握して手立てを考えて保健教育を行っているが、文部科学省の『心身の保持増進に関する指導の資質能力の育成』で示されている三つの力に照らし合わせてみると、すべての力を網羅できていないことがわかった。特に、養護教諭が行う保健教育は1時間もしくは朝・帰りの会等、短時間となるため、指導内容が【知識及び技能】に偏ってしまうことが往々にしてある。

そこで、三つの柱に沿って計画的に実践するためのツールとして「パワーアップシート」を作成した。パワーアップシートは、健康課題に対する子どもの実態やねらい、身に付けさせたい力（目標）を三つの柱に当てはめて設定し、各柱に対する計画・振り返りができるシートである。3つの力をバランスよく身に付け、めざす子ども像に迫るためのツールとして、パワーアップシートが有効であったか明らかにすることを研究のうち1つの目的とした。

2. 研究経過

(1)令和元年度 学習指導要領(平成 29 年告示)に沿った指導の検討

①子どもたちの実態把握

ブレインストーミングをしたうえで話し合い、区内の子どもたちの課題を以下のようにまとめた。

- 自分の体に興味・関心がない
- 自分の体について知らない
- 自分で意思決定ができない
- 自分のことや知識・経験を他の人へ伝えられない

②学習指導要領(平成 29 年告示)の三つの柱に沿った指導の検討

課題に対するアプローチを三つの柱に沿って考えることでより様々な視点を持つことができると考えた。また、三つの柱にあてはめて情報を整理し、計画的に保健室経営を進めていくことを目指した。

③ワークシート(令和元年度版)を活用した意見の整理、意見交換

事前にワークシート(令和元年度版)にまとめることで各々の考えを整理する。ワークシートをもとに意見交換することでより明確に実践について話し合えた。

(2)令和2年度 学習指導要領の三つの柱に沿った実践

①3グループに分かれて研究を進める

ワークシート(令和元年度版)のテーマ内容から生活習慣、心のケア、危機予測・危険回避の3グループに分かれた。

②三つの柱に対応した目指す子ども像の設定

より具体的に手立てを考えられるように、以下のように設定した。

- 知識及び技能
自分の体に興味・関心をもつ子
- 思考力、判断力、表現力等
自分のことについて自分で決められる子
- 学びに向かう力、人間性等
自分の人生に生かし他者へ貢献できる子

③ワークシート(令和2年度版)を用いた課題の分析、手立ての検討

子どもたちの実態を細かく分析する。その課題に応じて、考えられる手立てを思いっただけ挙げて、グループ内でまとめる。その中から実際に指導する手立てを検討できるようにした。

(3)令和3・4年度「パワーアップシート」を活用した実践と共有

①三つの柱に沿った力をバランスよく育てることを目指す

ワークシート「パワーアップシート」に沿って計画することで、学習指導要領の3つの力を網羅した指導を常に意識するようになった。

②PDCAサイクルで深める

パワーアップシートに、計画→実行→評価→改善の欄を設けた。シートに沿って実践しながら記入していくことで自然とPDCAサイクルが進められるようにした。

③実践内容の共有

定期的にグループ内や全体で共有し相談し合うことで、よりよい実践を作り上げていった。パワーアップシートや教材をクラスルーム内で共有することにより、どの学校でも使えるようにした。

II. 研究の内容

1. 体育科(保健領域)「体の発育・発達」

「自分の気持ちや状態を相手に伝えることが苦手」、「相手を思いやる気持ちに個人差がある」という子どもの実態があったため、体育科(保健領域)や保健の指導を通して「自分の気持ちや状態を、相手が分かるように伝えることができる」、「自分の体と同じように、相手の心と体も大切にできる」というねらいを設定した。実践紹介では、「4年生の体育科(保健領域)」と「5・6年生の宿泊行事前保健の指導」を通して継続的な指導ができる研究を進めていった。

2. 特別活動(学級活動)「目の健康」

生活習慣の乱れからくる健康課題に着目し、生活習慣向上というねらいを設定した。実践紹介では、視力低下を防ぐために「目を大切にするための行動を考え、実践できる」研究を進めていった。

3. 特別活動(児童会活動)「ほけん目標に沿った保健委員会の取組」

特別活動(児童会活動)では、学校で起こるけがを少なくするために、どのような取組ができるのかを考え、保健委員会活動を通して、子どもたちが自ら考えて行動できるように進めてきた。また、毎月の「ほけん目標」が全校児童や教職員に周知されていない現状があった。そこで、「ほけん目標」の達成に向けて活動内容を考えるにあたり、三つの柱に沿ったワークシートを作成した。『ほけん目標』と関連づけた学校での取組を、保健委員会の子どもたちが自ら学び、全校児童へ情報発信し、けがへの予防意識を高めることができる」研究を進めていった。

III. パワーアップシートアンケート結果

多摩区養護教諭に対して、子どもたちが3つの力をバランスよく身に付けるためのツールとして、パワーアップシートが有効であったか明らかにすることを目的として、アンケートを行った。

養護教諭は日々の保健室経営においてPDCAサイクルを行っているが、さらに三つの柱を意識した取組を加えることで、子どもが3つの力をバランスよく身に付けることができ、行動変容につなげる一助になることが分かった。アンケート結果より、パワーアップシートは1枚で計画・実践・振り返りを行うことができるため、見やすく、使いやすいこと、さらに保健室経営計画にも反映させやすいということが明らかとなった。また、三つの柱に沿って活動内容を考えることが子どもたちの活動においても有効であることが分かった。これは、本研究において新しい発見となった。

パワーアップシートは、短時間での保健の指導であっても、時間内に【知識及び技能】【思考力、判断力、表現力等】【学びに向かう力、人間性等】のどの部分を伝えるのか、またそれ以外の部分をどのように分割して指導・発信(事前アンケート・ほけんだより・朝や帰りの会等)していくのか計画・実践していくため、新年度の保健室経営計画作成時だけではなく、どのような課題・対象・時期・指導時間に対しても活用することができ、かつ、三つの柱に沿った計画・実践することができ、最終的に三つの柱を網羅した指導を行って目標を達成していくことができた。

IV. 研究のまとめと今後の課題

1. 研究のまとめ

(1)子どもの変容を通して

「自分の体に興味・関心をもつことができる」ようになると、「自分のことについて自分で決める」ことができ、子どもたち自身が「自分の人生に生かし、他者へ貢献できる」ようになることが分かった。また、パワーアップシート活用後のアンケートにおいても、子どもの姿の項目で、多摩区養護教諭の85%以上が「とてもよい変化があった」「よい変化があった」と回答した。具体的には、学んだことを保護者に伝えたり他者に対して優しい声かけや接し方ができたりしたなど、子どもに行動変容が見られたという意見が多く出た。

(2)養護教諭の変容を通して

多摩区養護研究会では、パワーアップシートを活用した実践内容について、全体で共有し情報交換する時間を大切にしてきた。他校の実践を積極的に自校に取り入れながら研究を重ね、誰でも、どんなテーマでも活用できることを目指した。その結果、保健教育だけでなく、年度途中の子どもたちの実態から見えてきた健康課題に対する取組や、ほけんだよりや掲示物、児童保健委員会活動など、どんな取組にも活用できることが分かった。子どもたちの健康課題をもとに保健室経営計画を立て、具体的な手立てを計画する際、「三つの柱」を意識したパワーアップシートを活用することで、【知識及び技能】【思考力、判断力、表現力等】【学びに向かう力、人間性等】の3つの力をバランスよく身に付ける計画・実践を行うことができた。3つの力をバランスよく育むことは、健康課題解決のために有効な手立てであり、多摩区養護教諭研究会がめざす子ども像「自分を大切にできる子」に近づくためにも有効な手立てであったと言える。今後は保健室経営計画だけでなく学校保健計画にもつなげ、学校保健関連行事など、教育活動全体の場面で活用することも視野に入れていく。

2. 今後の課題

一つ目に、子どもに身に付けさせたい力の設定が不十分であったことが挙げられる。三つの柱とリンクさせるのであれば、【思考力、判断力、表現力等】の部分で「自分で決めて行動する」ことを身に付けさせたい力(目標)として設定し、子どもが意思決定して実践できるようになることを目指して研究を進められると良かった。

二つ目に、「③自分の人生に生かし、他者へ貢献できる」という目標へのアプローチに難しさを感じた。今回パワーアップシートを使用して実践を進めたことで、これまで、「他者や社会との関わりに関する視点」が欠けていたり、考える機会が少なかったりしていたことが見えてきた。今後は、「他者や社会との関わりに関する視点」も大切にしながら、子どもたちがよりよい人間関係を形成できるような指導・支援をしていきたい。

最後に、養護教諭同士の横のつながりを密にすることは、養護教諭がお互いに学び合いを深めるよい機会になると感じている。そのため、研究経過の共有や感想・質問など、電子掲示板として効果的にGIGA端末を使い、活発なやりとりを続けている。子どもたちを取り巻く環境が変わり、健康課題が変化し続けても、今後もパワーアップシートを活用しながら子どもたちのために様々な場面での有効な指導や支援を継続していく。

研究協議 研究協議の柱

柱1：三つの柱に沿って計画的に実践されていたか

柱2：選択式

- ・各校の保健室経営でパワーアップシートを使ってみたい場面を教えてください
- ・「③自分の人生に生かし、他者へ貢献できる」というアプローチ方法を教えてください

【協議内容】

- ・計画段階から三つの柱に沿った指導の検討がよくできていた。新しい視点だった。指導内容では生理用ナプキンの使用や、目の疲れなどの実態に合わせて、課題に応じた実践ができていてよかった。
- ・パワーアップシートは、年間計画を立てるときやT2での授業などで使用したい。
- ・三つの柱に沿ってバランスよく指導の検討をしていたことは、計画的に意識して取り組んでいてよかった。継続していけるような手立てだと思った。
- ・パワーアップシートは、頻回来室者に対してや、養護教諭の振り返り（コーディネーターとの振り返り）、委員会活動、授業で活用したい。授業で活用する場合は指導案とパワーアップシートの2つを作ることは大変だが、情報共有をする際に必要なため、実施したいと思う。ただ、他者への貢献までつなげられるかなという意見があった。
- ・パワーアップシートは、授業や委員会、健康診断事前指導などで使用したい。他者に貢献できるということは、高学年が低学年に対して手洗い指導やポスターで周知したり、5年生のけがの指導では、授業だけにとどまらず授業内容(けがの多い場所)を校内に張り出す、保健室に来る前に患部を洗ってくるなどを友だちにも伝えてねと言ったりするのも他者貢献に入るのではないかと考える。
- ・パワーアップシートを活用したバランスのよい指導を考えたい。
- ・パワーアップシートは、委員会やけがの指導で使いたい。また、子どもが自分で使えるパワーアップシートがあればよい。
- ・パワーアップシートで実態に応じた指導ができていた。一度の授業で終わらせずに掲示物や保健だよりで補足したりして様々な工夫があった。
- ・パワーアップシートでは、授業、生命の安全教育や保健委員会など子どもたちにとってわかりやすくよい影響があると思う。書き足しながらパワーアップシートを作成することで、次年度に生かせる。

【質問と回答】

質問	回答
R2とR3・4のグループ名が違うのはなぜか。	R2の多摩区の実態から、心のケアが必要な子どもが多いと感じていた。養護教諭が子どもと授業で関わる場面は多いという話になり、自分の心の変化をきっかけに、体育科(保健領域)を通して、課題解決していくことを目指してグループ名を変えた。
「他者や社会」とは、何を指しているか。	他者と関わることは、一人ひとりが学校や学級等の社会と関わっていくことだと考え、この言葉を使用した。
4～6年生での実践でしたが、対象学年が高学年であった理由は何か？	「目の健康」に関しては、学校の実態に合わせて4年生になった。また、冊子で紹介されているのは4～6年生だが、1～3年生にパワーアップシートを使用している学校もある。

また、指導案作成の時間配分や低学年での実践例があれば教えてほしい。	パワーアップシートに書いてある計画のすべてを授業で行ったわけではなく、掲示物やほけんだよりでも発信することで、三つの柱に沿った目標がすべて達成できるようにした。 ※他グループの実践については、養護研究会資料室(クラスルーム)に掲載
保健委員会の取組には、どのくらいの時間を要したか。	保健目標の実践には2～3週間の時間を要した。GIGA 端末を使用し、休み時間に活動する際に、話を詰めた。教員の担当を集会とスタンプラリーで分けた。
保健目標に沿った実践について、実践を行う月を絞ったのか、毎月行ったのか知りたい。	毎月必ずではないが、課題があったときにはパワーアップシートの形式を使って活動した。毎月活用するのは負担ではないかという意見もあるが、活動の流れが子どもにもわかるので子どもだけで委員会を進められるというメリットもある。

※各地区からの質問については、養護研究会資料室(クラスルーム)に掲載

【指導講評 野口指導主事】

学習指導要領に基づいた協議の柱について、自校の実践と関連付けて、たくさんの意見交換や協議が行われていた。研究内容では、多摩区の児童の実態把握を丁寧なされ、健康課題を把握し、めざす子ども像を三つの柱に沿って明確にされていたところや、心身の健康保持増進を目指して研究を進められたことは素晴らしいと思う。自分を大切にできる子の育成というテーマに沿ったパワーアップシートを作成し、保健室経営を見直し、子どもたちの実態を細かく分析していた。

PDCA サイクルで指導計画から振り返りまでを行い、実践を深めたり、実践内容の共有をしたりする際にも効果的であった。どの授業も保護者を巻き込んで授業実践ができたことがよかった。保健目標に沿った委員会活動を取り組むことは、今まであまり見られなかったが、今後は、このような取り組みを生かしてほしい。また、学習指導要領を意識して取り組んだ研究は今まであまりなかったもので、今回の研究で深められたことはよかった。ぜひ参考にしてほしい。

性に関する指導(集団指導と個別指導どちらがよいのか)について、学習指導要領を超える発展的な内容では、学校全体で共有し、教職員の共通理解を図ることが必要である。また、保護者や地域の理解を得ることも必要である。そのような理解があった上で指導をしていくことが必要である。性に関する指導については、文部科学省、神奈川県、川崎市の性に関する指導の参考資料を参考にして慎重に取り組んでほしい。

今後の課題は、身に付けさせたい力の設定が不十分ということと、自分の人生に生かし他者(学級、学校など発達段階において変わっていく)への貢献方法のアプローチの仕方の難しさについて、あげられていた。身に付けさせたい力については、ゴールを設定し、ゴールを目指して具体的にイメージすることが大切である。自分の人生に生かし他者への貢献方法については、発達段階において変化していくものである。

研究全体を通して健康教育、保健教育を進めていく際に、体育科の保健領域がベースになる。まずは保健領域の教育内容を把握し、各教科等でも心身の健康の保持増進に関する教育内容について確認をする。保健教育を進めるにあたり、教科の目標、ねらい、特徴をおさえ、学習指導要領をもとに進める。

以下は、参考にしてほしい資料である。(参考資料・・・5冊紹介)

多摩区の先生方、研究報告の発表、大変お疲れさまでした。児童の実態を把握し、三つの柱をもとにパワーアップシートを作成した実践は素晴らしかった。養護教諭全体として、レベルアップしていきたい。今後も人

生を健康に生き抜く力を養うため、全教職員、家庭、地域と連携して計画的に取り組んでほしい。

最後になりますが、多摩区の研究で生まれた子どもたちの力が、これからの長い人生において健康に生き抜いていくための力として、子どもたちに定着していくことを願っている。自分の体に興味関心をもつことができる、自分のことを自分で決める、自分の人生に生かし他者へ貢献できる子どもの育成に励んで欲しい。

多摩区の先生方、素晴らしい研究報告をありがとうございました。